

## 9 環境教育関東ミーティング

平成19年2月10日～12日

### 1 ねらいとその達成状況

事業項目・区分 (現代的課題等)	国や地域の青少年教育に係る課題に対応したフォーラム等連絡・協力を促進する事業(青少年教育施設・団体との連絡・協力の促進) 青少年に地球環境を保全する意識を育む体験型環境学習事業		
事業のねらい (学習要求や必要課題等)	関東近県の、環境教育や自然体験活動のリーダー及びそれらに関心を有する人々が一堂に会して、学び・情報・具体的な行動計画などを共有する機会を提供する。		
ねらいの達成状況 (参加者の変容等)	参加者の年齢、出身地域、所属等が多岐にわたっていたので、新しい視点や幅広い情報を得る絶好の機会となった。参加者・ゲスト・スタッフ間の交流と連携が深まり、新しい行動を起こす熱意と意欲が感じられた。		
参加者のアンケート 結果(満足度)	事業全体 運営	98% 96%	プログラム 職員の指導・助言 98% 98%

### 2 企画・立案

事業の必要性 (理由・背景等)	環境教育を推進するためには、様々な立場で環境教育を実践している人たちの連携が不可欠である。そのためには、関東近辺の環境教育や自然体験活動のリーダー及びそれらに関心を有する人々が一堂に会して、学び・情報・具体的な行動計画などを共有化し、連携を深めることが重要である。			
ニーズの把握状況	昨年度の参加者アンケート及び実行委員からの反省や意見をふまえたり、「清里ミーティング」関係者から環境教育をめぐる現代的なニーズを聞いたりして、プログラム立案に生かした。			
ねらいとプログラムの関係	ねらいをふまえ、実行委員会でテーマ「こころと環境教育」を設定し、それらに沿って、プログラムデザインの企画やゲスト等の選出を行った。			
主なプログラム (タイムテーブル)	第1日			
	時 間	プログラム	活動内容概略	
	13:00～13:30	オープニング		
	13:30～15:30	「おやき」づくり	「おやき」づくりの実習	
	15:30～17:30	オープニングトーク	体験活動が「こころ」の成長にもたらすもの	
	19:00～21:30	自主企画	参加者によるプレゼンテーション	
	第2日			
	時 間	プログラム	活動内容概略	
	7:00～ 8:00	早朝プログラム	自然観察とレンジャートーク	
	9:00～16:30	分科会（8会）	「『こころ』の分科会」他	
	19:00～21:00	交流会	交流会トーク及び情報交換会	
	第3日			
	時 間	プログラム	活動内容概略	
	9:00～10:00	フリータイム	参加者の時間	
	10:00～11:00	分科会の共有	ゲストを囲んで	
	11:00～12:00	全体でのふりかえり	行動計画の共有化	
	12:00～12:30	クロージング		
	14:00	解散		
	事業の改善点 (継続事業のみ)	昨年度を引き継ぐ内容と新たなニーズを反映させた内容とを織り交ぜて、リピーターも新規の人も興味を持つようなプログラムを立案した。また、早い時期からの広報及び様々な媒体を活用してのPRを積極的に行った。		
	企画・立案体制（関係機関・講師との連携等）	環境関係の省庁や団体等から実行委員会を構成し、事業開催までに6回の会議と電子メール等による意見と情報の交換（100回以上）を行い、コンセンサスを得ながら、企画を練り上げた。		
	募集人数の設定基準	分科会数の設定やゲストの人数などを勘案し、参加者が主体的にかかわれるミーティングとして適正な人数に設定した。		
実施時期の設定理由	メインの参加者となる環境教育の指導者層や学生が参加しやすい時期と考え、3連休となる日程に開催することとした。			

### 3 参加状況等

募集人数・募集対象	募集人数：100人 募集対象：社会人、学生、高校生
-----------	------------------------------

参加者数(申込者数)	参加者数：128人(申込150人)
参加者内訳	高校生：12人，学生：28人，社会人：88人 (10代16人，20代39人，30代20人，40代26人， 50代14人，60代以上13人)
参加地域	設置道県：48人， 設置道県以外：80人(内訳：茨城県2人，栃木県14人，埼玉県11人，千葉県4人，東京都23人，神奈川県5人，福島県7人，新潟県3人，山梨県3人，長野県3人，他5人)
広報活動	開催要項・チラシの配布及び掲載(関東地区の社会教育施設・都道府県委員会等・青少年教育団体・各種学校・WEB上・新聞・広報誌等)
参加費	一般10,000円，学生・高校生8,000円
運営担当者	企画指導専門職：5人，事業推進係：6人

#### 4 事業実施

ねらいの周知・方法 (参加者・講師・職員)	参加者及びゲストには，事前に全体会や分科会のねらいや情報について，資料送付及びWEBページ掲載などで，周知を図った。特に分科会は，事前に希望を受け付け，参加意欲を高めた。職員間では，数回打合せを持ち，ねらい等について，コンセンサスを得ながら，運営体制を整えた。
参加者の学習状況 (学習内容・方法)	全体会でも分科会でも，参加者の積極的・意欲的な取り組みが見られた。特に話し合いや参加型のワークでは，活発に意見が交わされ，学びや気づきが深められていた。
日程運営 (スケジュール)	一部タイトな時間と持て余す時間が混在したが，全体的な日程は特に問題なく，スムーズに運営できた。
学習環境 (施設設備・教材資料等)	必要な物品やフィールド条件はプログラムに合うように用意され，教材・資料の準備なども大方万全だった。当施設の機能を十分に活用できた。
健康・安全対策	複数会場で行われる分科会では，実行委員・ボランティア・職員をそれぞれ配置し，安全対策に留意した。さらに，湯茶コーナーを設け，水分補給と保温に配慮した。ただ事業後関係者に風邪が蔓延したことは，反省点であろう。
講師・関係機関等との連携 (ボラ等を含む)	ゲストとは事前に打合せの時間を持ったり，メールでのやりとりをしたりして，ねらいを共有し，プログラム展開について協議した。ボランティアに対しても，詳細な打合せ及び役割分担を行った。

#### 5 事業実施後の評価や普及

参加者の評価 (アンケートの自由記述等から)	「ありそうでなかった出会いに感動した」「オープニングからクローズまでの盛り上げ方が温かくて豊かで良かった」等，おおむね好評だったが，「もう少し期間が長くても良い」との意見もあり，検討材料もいただいた。
講師・関係機関等の評価	ゲストからは，「スムーズな運営なら他のイベントにもあったが，その他に暖かさがあった。申し分ない」との高い評価を得た。
職員の評価 (企画段階から関わったボラ等を含む)	全体会・分科会ともにテーマに沿った内容で進められたが，テーマへの思いを参加者にダイレクトに提示するような仕掛けがあってもよかったかもしれない。運営面でも大過はなかったが，緊張感が薄れる場面があった。
事業報告の状況	文教ニュース社や官庁通信社を通して事業内容を発信した。WEB上にも事業報告を公開し，所内にも報告の掲示をした。
普及実績 (計画・予定を含む)	実行委員やゲストが関与する団体の会報等に，実施内容が報告された。
事業後の反応 (参加者・普及先等)	参加者が，自己のブログ等のページで事業の様子や感想を掲載した。また，別の参加者からは，今後の自分の活動に大いに役立てていきたいとのメールや手紙をいただいた。

#### 6 その他の特記事項(成果等)

<p>最後のふりかえりでは，「帰ってからやってみたくなかったこと」を発表し合ったが，例年になく活発で熱心な意見交換が行われた。特に，日常に戻ってから，このイベントで得たネットワークを活用するなどして，新しいアクションを起こしたいとの意見が多数あり，今後環境教育をめぐる参加者の具体的な実践を期待する。</p> <p>今回の実行委員：ぐんま環境教育ネットワーク 穴澤剛行氏他7名          今回の講師：非電化工房主宰・発明家 藤村靖之氏，くりこま高原自然学校長 佐々木豊志氏          日本野鳥の会 安西英明氏，日本自然保護協会 横山隆一氏他20名</p>	
---	--